

AHPとは

- 階層的意思決定手法(AHP:Analytic Hierarchy Process)は、人間の総合判断、評価の仕組みを階層構造に構造化し、意思決定を行っていくプロセス。
- 問題全体を、最終目標、評価基準、代替案という階層図に表現し、2要素の一対比較という直感的な判断を基に、問題全体の大局的な判断を合成して作成。
- 不確定な状況や多様な評価基準における意思決定法のこと。サーティ氏が1971年に開発。
- 日本における近年の適用事例としては、1992年に制定された国会等の移転に関する法律のもと1999年に10候補地の中から「栃木・福島地域」、「岐阜・愛知地域」を選定し答申された国会等首都機能移転候補地選びがあげられる。
- 紀南地域廃棄物最終処分場立地選定にAHPを用いた。

新最終処分場選定におけるAHPの活用

本市では、新最終処分場の候補地9か所の立地特性、生活環境、自然環境、災害危険の調査を実施し、3か所程度に絞り込み、最終的には1か所に選定したいと思っている。

最終目標

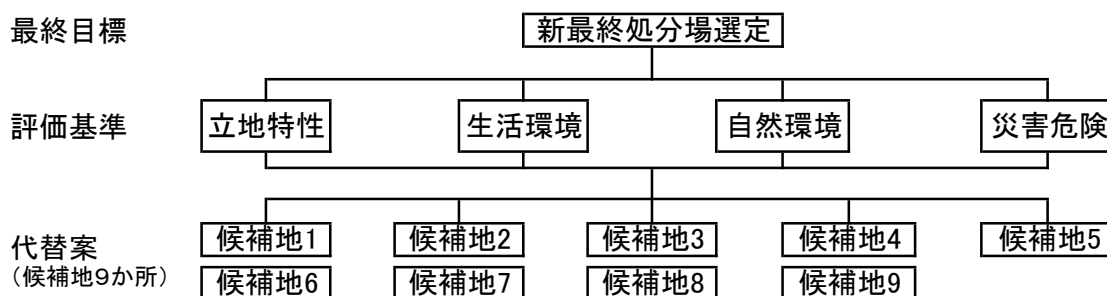


表1 一対比較値

一対比較値	意 味
1	両方の項目が同じくらい重要
3	前の項目の方が後の項目より若干重要
5	前の項目の方が後の項目より重要
7	前の項目の方が後の項目よりかなり重要
9	前の項目の方が後の項目より絶対的に重要
2,4,6,8	補完的に用いる
上記の数値の逆数	後の項目から前の項目をみた場合に用いる